高齢の学習困難者の仮名学習
…実践報告：「最低限絵単語方式」と「万葉仮名」…

安場 淳

１．はじめに

中国帰国邦人の高齢化に伴って、その日本語習得は一層困難さを増してきている。戦後 62 年が過ぎ、最も若い帰国孤児でも 60 歳を超える歳となり、一般的な就労年齢の上限も越えつつある。もはや帰国孤児に「日本語を早く覚えて経済的に自立した方がいい」と言う支援者はいないだろう。そして、日本語学習も、日本語の習得そのものよりも健康維持・増進や交流のきっかけという位置づけに推移してきていると言えるだろう。

しかし、「活到老，学到老（年寄りになるまで生き、年寄りになるまで学ぶ、すなわち歳をとっても学習を続ける）」という慣用句をモットーに日本語を学び続けたいという高齢者も少なくない。特に孤児本人の人たちの学習意欲は高い。彼らのそのような意欲も尊重したい。

これらのことを前提として、本稿では、高齢で就学経験のない、ないしあまりない（したがって非識字者や半非識字者であることが多い）学習者に対する学習支援実践の１例について報告したい。こうした人たちの場合、母語である中国語の読み書きが不得手であるため漢字の転移が期待できないだけでなく、学習の方法が習得されていないことから同年代の帰国者と比べても日本語、中でも文字の習得には大きな困難がある。（以下、これらの人たちを学習困難者と称する。）

しかし、内藤（1995）も言うように「文字を習得することは社会生活上のさまざまな便宜をもたらす。名前が書ければ銀行や役所での手続き等も可能になってくるし、電車の切符の料金表が見られ、駅名の看板が読めれば自分で電車に乗れるようになる」。そして、そうできたことが日本での生活の上での小さな自信となるだろう。また、習ってもなかなか覚えられない語彙や生活の中で耳にした語彙をメモにとっておいて見返すなどして、文字を語彙の記銘

や保持[1]の手がかりとする可能性も、高齢者といえどもゼロではない。

さらに、子供の頃、勉強したくてもその機会がなかった帰国者の場合、文字を学べるという喜びや文字を習得できたという自信が次の学習への、引いては大げさかもしれないが生きる意欲へとつながる場合もあり得る。中国社会は文字の読み書きができないことを「「文化」がない」と称することに表れているように、読み書きを非常に重視する社会である。そのような社会において非識字者であることの辛さを痛感してきた人にとっては文字を獲得することの意味は小さくないと考えられる[2]。

その意味でも高齢の学習困難者の意欲を尊重した学習支援の方法・内容を考えることには意義があるだろう。

２．これまでの指導

2-1. 絵単語方式

これまで中国帰国者定着促進センター（以下、センター）ではずっと、何とかこれらの学習困難者がより楽に仮名を習得できる手段がないか模索してきた。特に非識字・半非識字者[3]に対する平仮名指導では、上述の内藤（1995）が報告している「絵単語」方式が大きな効果を上げてきた。

絵単語方式というのは、まず日本語の単語を音声で覚え、その語頭文字を「〝みかん〟的〝み〟（「〝みかん〟の〝み〟」の意の中国語）』という連想から導いて記銘の助けとする方法で、その単語のイラスト入りのプリントやカードを教材として用いる。プログラムとしては過去に三種類が実施されてきている。

---

[1]「記銘」は記憶の第一段階で、経験内容を覚え込み、定着させること。「保持」は第二段階で、記銘された内容が残存・維持される過程。第三段階が「再生」。

[2] もちろん、彼らにとって最も意味があるのは母語の読み書きができるようになることであろうが、ここでは何語であろうと今必要な言語の文字という意味でこのように考えている。

[3] ここでいう非識字者とは当センターの入所時の検査項目で漢数字や「上・下」などのごく簡単な漢字の読みも困難な人を指し、半非識字者とは、上記の文字群は読めるが、「一定」、「地方」等中国語で使用頻度の高い 40 語が全部は読めない人を指す。

一つ・は「シソーラス方式」と称しているものだが、まず、ある一つの意味上のカテゴリーに属する数個の常用語を絵カードで提示して、それらにまつわる話題の授業(トピックを中心にコミュニケーション力を養成しようとするプログラム)の中で教師とやりとりをしながら覚えていく(例:みかん・りんご・もも・すいか)。その後、それらの語彙の語頭文字を[4]『「みかん」の「み」』という連想から導いて記銘の助けとする。そして、野菜や乗り物など様々なカテゴリーの語彙と仮名を蓄積して50音を覚えるという方法である。覚えた後に行別に50音図と関連づけて整理する。この方法はカテゴリー別の語を採用しているため、それらの語がトピックの材料として使えるメリットがある。しかし、ばらばらに覚えた文字について50音図の中での配置を改めて整理する必要があり、その分の手間が余計に掛かる方法でもある。

二つめの「50音方式」は、行別に、各文字が語頭に現れる５個の常用語を絵カードで提示して覚え、それらの語頭文字を覚えていく方法である。この方法だと手間は一度で済むが、５つの語彙に関連がないため(例:あし、いす、うち、えき、おかね等)、連想が働きにくく、また、まとまった話題の材料には使えないという欠点がある。さらに、センターのカリキュラムのように他プログラム[5]の語彙も同時並行で覚えなければならない場合、語彙記銘の負担が増すのもデメリットである。

三つめは「書きやすい文字順方式」。これは語頭文字の提示順を字形の単純なものから複雑なものへと並べたものである。例えば、一回めには{いす、つくえ、くつ、こめ}などを学ぶ。一つの語彙群の語彙に意味上の関連がなく、また50音図で再整理が必要になるなど、一つめと二つめのデメリットが重なってしまう方法ではあるが、複雑な字形の仮名の学習に対して敷居が高いと感じる非識字者ほどこの方式は効果があった。

いずれの方法にせよ、絵単語による方法は確かに効果があり、50音を文字のみ行別に提示したのでは覚えられなかった学習者であっても仮名が習得できるという成果をもたらした。試行錯誤の後、当時４ヶ月しか学習期間がなかったことから[6]総合的に見て50音方式の方が効率がよいと判断され、内藤の時代以降、高齢の学習困難者のクラスでは主に50音方式が用いられてきていた。

[4]常用語の語頭に来ない「ん」は語末から取る。

[5] 行動場面シラバスによるプログラムや、自己紹介的な内容でやりとりができるようにする交流プログラムなどがある。

2-2. 最近の傾向

冒頭に述べたように、学習者の高齢化に伴い、学習の目的自体が健康維持・増進のきっかけに変わってきている。その背景には、10年前に帰国した人たちに比べて単語も文字も新たに覚えることが格段に困難になってきたことがある。平均年齢が10歳上がっているのだから当然のことではあるが。

一方、センターでは学習者の減少により、絵単語を用いた方がいい人と用いなくても仮名を覚えられる人とが一クラスに混在せざるを得なくなった。そのようなクラスでは、人数的には行別に文字だけを提示しても覚えられる学習者が主流となることが多いが、一クラス内で絵単語方式と一般的な行別方式を混在させることは運営上困難がある。このため、高齢者クラス全体としては絵単語を用いない行別の仮名指導が主となってきており、クラス内の仮名の習得度に大きな差が出てきていた[7]。

３．実践過程の報告

2-1.「最低限絵単語方式」

本稿では、研修期間が６ヶ月になってからのある期の高齢者クラスの平仮名学習支援について報告する。このクラスは非識字者、半非識字者を含む平均年齢62歳の５名で構成されていた。そのうち、中国で小学校卒３名と就学経験なしが２名で、この２名は非識字者であった。このため、行別の提示では習得が困難である人が多いことが予想され、クラス単位で絵単語アプローチを採用することとした。また、彼らの学習適性から、より負担の少ない方法をとることが不可欠であると考えられたため、シソーラス方式を採用した。

[6] 当センターの研修期間は2004年６月より６ヶ月となっている。

[7] 非識字の学習者の場合、６ヶ月かかっても習得できた仮名が数個のみという場合もあった。

採用する語については、内藤(1995)と同じく、

①身近なもので生活の中で使え、かつ具体的なもの

したがってイメージしにくい語(未見のものや抽象語)は採用しない

但し、高齢化に伴い、覚えられる語彙数が相当に限られるようになったため、以下の方針を新たに立てた。

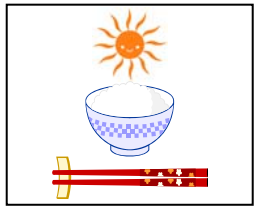
②センターの日本語シラバス全体を通して提示する語彙をできるだけ絞る

記銘の負担を極力減らすため、絵単語プログラムの語彙と当センターの文字・語彙以外のプログラムの語彙をできるだけダブらせ、その週に提示する語彙の中から仮名の提示に用いる語を極力選ぶようにする

③その語の発音が中国語と日本語で似ていても構わないとする

10年前は、例えば「掃除」と「扫地(sao-di)」のように、中国語で意味の近い語彙の発音と似て非なる発音の語は混乱の原因になるので採用しないようにしたが、今回はそれでもよしとした。何しろ覚えられる語彙数が限られているので、提示した必要最低限の語彙に使われている文字をできるだけ採用する方針とした。「そうじ」を「sao-di」と思ってしまっていても、会話中でそれらしく聞こえるなら構わないという発想である。(但し、後述の万葉仮名方式を併用する)

これらの語の提示のセットリストは章末の付表の通りである。A4判一枚の教材に一グループの語を納めて中訳とイラストを添え(章末付録を参照)、話題の授業の都度、配ってファイルしてもらうようにした。また、教室の前面の壁いっぱいを50音図に見立て、既習の文字とその絵及び中国語訳を添えたB5判大の紙をその文字を提示するごとに貼り付けていき、いつでも既習の文字が見られるようにした。なお、全ての語に一目瞭然のイラストは描き出せず、語によっては「この絵はこの言葉のつもりで覚えてください」という、抽象度のやや高いイラストも苦し紛れに使わざるを得なかった(例えば「昼ご飯」のイラストは「真上の太陽」に「茶碗によそったご飯」と



「箸」で表した、など　前ページの図参照)

表１．最低限絵単語の行別リスト 網掛けのものは後述の行別折衷方式で導入

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
私	ﾗｰﾒﾝ	野菜	孫	白菜	茄子	ﾀﾊﾞｺ	財布	家内	雨
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
	ﾘﾝｺﾞ		ﾐｶﾝ	飛行機	日本	血	塩	切符	椅子
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	夜(語末)	雪	娘	夫婦	ｲﾇ(語末)	机	ｽｰﾊﾟｰ	車	うち
を	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
	ﾚｽﾄﾗﾝ		ﾒﾛﾝ	部屋	葱	手	ｾﾝﾀｰ	警察	駅
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
	廊下	夜	桃	骨、星	飲みます	ﾄｲﾚ	掃除	米	お金

＊トイレ、センターなどの片仮名語も日常的に使用頻度の高い語は平仮名の導入に用いた。但し、目にする機会があるのは片仮名の方であるので、片仮名の上に平仮名でルビを振る形で提示した。

また、覚えた仮名がいくつかたまったところで、既習文字の組み合わせで読める未習語彙を日中対訳でイラスト付きの一枚の教材にし、音読練習を取り入れた。これを繰り返すことで一文字だけの読みでなく、語として音読することに慣れてもらうように努めた。

例)　1…かまわむ、2…うせそと、3…おすさた、4…もりみめ　が定着したところで、これらを用いる未習語として以下のものの音読練習

｛　みみ、か、かさ、かた、かわ、かみ、うま、まめ、とり　｝

但し、長音を長音として音読するのは表記の知識がないと難しいが、その知識を保持することも困難であるため、短音として読んでしまってもよしとした。促音については既習の語の読みとして再提示する。

2-2. 使える資源は何でも使う…「万葉仮名」

さて、日常的な中国語の識字には問題ないが、学習適性や年齢の関係でな

かなか平仮名が覚えられない中国語母語話者がよく使う学習ストラテジーにいわゆる「万葉仮名」の使用がある。ここでセンターが「万葉仮名」と称しているのは、「日本語の仮名の脇に添えられた、その仮名の発音に類似の発音の中国語の漢字」のことである。例えば、「み」の脇に「米(中国語の発音は"mi")」と振るのがそれである。通常、この万葉仮名に頼っているといつまでたっても平仮名の読みを覚えないとして、教師は学習者のテキスト上に「万葉仮名」を見つけるたびに消させている。筆者自身もそのようにしてきたし、学習者にもそのように伝えてきた。

しかし、仮名や単語を覚えようとして苦労している学習者は、半非識字者であっても自分の知っている「万葉仮名」を何とか書こうとする。それが唯一の記憶のよすがなのだから、そうしたくなるのも人情だろう(単語については日中対訳の音声テープも渡すのだが、機械操作が面倒とのことで、あまり聞いてくれない場合が多い)。そして、その万葉仮名に依って自学自習を進め、何とか覚えてくる人もいるので、万葉仮名はバカにできない機能があると言える。

しかし、完全に対応する音韻が少ない中日間の音韻である。問題はそのまま残り、学習者が聞き取って文字化したその万葉仮名を再生してもらうと、ものによっては該当の日本語の発音からほど遠く聞こえる場合も少なくない。

それならと、発想を転換することにした。どうせ、「万葉仮名」を皆が振ってしまうのであれば、より日本語らしく聞こえるものを先回りしてこちらから提示して振ってもらい、記銘の助けにしてもらった方がいいのではないかと考えたのである。

どの漢字を万葉仮名に採用するかは、優先順位の高い方から以下の原則を立て、学習者とその場で相談しながらより印象に残りやすい漢字を採用することとした。

1. なるべく使用頻度の高い漢字、つまり識字程度の低い人にも読めるもの(例:「に」に中国語の"ni"の音を当てる場合、"你"と"腻"では"你"を優先して使用)

2. できれば中国語の声調で読み上げたときの聞こえが日本語の語アクセントとひどくかけ離れないこと (例:「まご」の場合、"马狗(mǎgǒu)"と"马够(mǎgòu)"なら"马够(mǎgòu)"を採用　など)

3. さらに可能であれば、子供だましのようだが語呂合わせになるもの(その方が印象に残りやすい)

語呂合わせとは「イヌが寝るからケンネル」式のものを指す。しかし、「ケンネル」ほど覚えやすいペアはさすがにそうないので、これは少しでも関連づけられる例があれば採用としたのみ(例…「むすこ」に"母四口=(「母が四人」とこじつける)"または"母四扣=(「母四人が差し押さえる」??印象にさえ残ればどちらでもよしとした)。

留意すべき点として、完全非識字者にとっては万葉仮名の漢字は発音の助けにならないのみならず、読めない漢字を添え書きしなければいけないなど、負担が増すだけである。完全非識字者の場合は、聞いた音声を自分なりに再生することを主にしてもらった方が混乱が少ない。(ただし、クラス全体として万葉仮名を振っていると自分だけそれをしない／できないということも心理的な影響があり、対応は簡単ではないが。)

なお、識字に問題のない学習者であれば、日本語で漢字で表される語彙は日本の漢字も添えた方が発音の転移が期待できるのであるが(例:「しんごう」は「信号」の音読みであると紹介したりすること)、学習困難者の場合、中国語訳の漢字と万葉仮名さらに日本語の漢字表記との間で却って混乱してしまうため、日本語の漢字表記の導入は避けた。

表２．万葉仮名　便宜上一つだけ示したが、声調次第で他の漢字も採用する

わ哇	ら拉	や牙	ま妈	は哈	な那	た他	さ撒	か卡	あ啊
	り李		み米	ひ西	に你	ち七	し西	き几*	い一
	る路	ゆ鱼	む母	ふ户	ぬ努	つ次	す四	く哭	う屋
を欧	れ累		め没	へ黑	ね内	て太	せ谁**	け开	え诶
ん嗯	ろ楼	よ有	も某	ほ后	の弄	と头	そ廋	こ口	お欧

＊ 網掛けした文字は中国語の発音との差がかなり大きいが、近い発音の字がないためやむなく採用した万葉仮名。これらの字については、学習者にも「本当はこ

の音とは違うが」と断って発音練習を念入りにやる。
** 東北方言の読み方(″sei″のような発音になる)にて採用

いくつかのカテゴリーで語彙が定着した頃に、いわゆる単語カード学習を導入した。これは小さなカードの表側に絵単語プリントに用いたのと同じイラストと中訳を小さく印刷し、裏面に対応する平仮名を印刷したカードの一つの隅に穴をあけてカードリングで束ねて携帯してもらい、いつでも練習したいときにできるようにしたものである。この仮名の脇にも万葉仮名を添え書きしてもらうようにした。

2-3. カテゴリーと行別の折衷方式

「最低限絵単語方式」で順に仮名を提示していくと、そのうちにそれらの語彙の語頭文字が既習の文字と重複してきて、新しい文字が１つのシソーラスカテゴリー中に一つか二つのみとなる[8]。「最低限方式」だけでは 50 音図を導入する時期がかなり遅くなってしまい、半年のコース中に濁音や拗音を紹介できなくなってしまう。そこで、一行中の既習文字が３つないし４つになっていれば、あと一つか二つの語彙と仮名なら話題と無関係でも覚えられるのではないかと考えて行別方式と折衷することとした。

50 音図の行別方式の「あ行」の開始時点での既習文字は以下の通りである。プログラム上は行別の導入と平行してシソーラスによる語彙と仮名の導入も進める形となる。

表３　行別の導入を始めた時点での既習文字

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に			き	
		ゆ	む	ふ			す	く	う
			め		ね		せ		え

[8] 内藤のシソーラス方式では、重複なく語頭文字を導入できるよう語彙の方をコントロールして、覚えた単語の語頭文字は必ず 50 音の新出文字になるように工夫されていた。つまり「初めに文字ありき」でその範囲でシソーラス化を図ったのだが、今回の最低限方式は「初めに語彙ありき」であるため、文字の導入上はロスが出る。

			も			と	そ	こ	お

表４ 語彙・文字プログラムの概要

	絵単語分野	文字		語彙関連の行動･知識ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	交流ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
1	家族			ｾﾝﾀｰでの生活	年齢､家族
2	ｾﾝﾀｰの生活	家族{まかわむ}*		ｾﾝﾀｰでの生活	
3	バス買い物	うそとせ		バス買い物①	
4	果物	おすさた		買い物②	
5	日中の家族	みりめも			中国の家族、出身地
6	交通	にふ		バス電車買い物	
7	気候天候	ひくえき			
8	野菜	ゆあ			交流実習①
9	穀物野菜	やねは		バス電車乗換①	
10	主食	こ		バス電車乗換②	
11	乗換外食①	ら	あ行{い}		
12	乗換外食②	のれ	か行{け}		
13	食材	けし	さた行{しちつて}	乗換外食①	
14	調味料		なは行{ぬへほ}		交流実習②(餃子)
15	身体		まやら行{よるろ}		
16	趣味		わ行ん{をん}	公民館見学	
17	病気		既習語でがざ行紹介	非常時電話	
18	施設		〃 だばぱ行紹介	乗換外食②	
19	色		〃 拗音紹介	市役所銀行	交流実習③
20	時間		〃 片仮名紹介		

*原則として「絵単語」の語彙が覚えられた翌週にそれらの語頭文字を導入する。以下分野名は省略した。

４．結果と考察

同じ学習者で方法別の習得文字数を比較することはできないが、上述の折衷方式で以下の結果が得られた。

表５ 単独の文字としてアトランダムに読めた仮名の数

属性(性別)	本人*(男)	配偶者(女)	本人(女)	本人(男)	配偶者(女)
識字程度	可	完全非識字	非識字(簡単なものは可)	簡単なもの可	簡単なもの可
学歴	小６卒	無	無	小６卒	小６卒
第５週(／16)	14	9	13	12	16
第10週(／24)	24***	12	18	13(但し第５週以降の新出分と入替わりあり)	24
第13週**(／33)	33	26	25	24	33
最終回****	46／46	36／46	40／42	43／46	42／42

*「本人」とは帰国孤児本人、「配偶者」は帰国孤児の配偶者を指す。孤児本人の方が概して日本語学習への動機付けが高いため、参考までに記したが、このクラスの学習者に関してはあまり関係がなかったと言える。

**この前の週から行別の仮名の導入を始めたこともあり、あ行の５文字は全員が再生できた。

*** この学習者はこの頃 50 音図とそれを読み上げた音声テープを要求し、それらを渡したところ自力で残りの仮名も覚えてきたが、週毎のチェックではクラスでの一斉の学習活動として提示した文字のみチェックした。

**** 欠席していて全46字中のチェックができなかった人もあった。

やはり非識字者にとっては記憶の負担は大きく、覚えられた語彙数も学歴の高い学習者が覚えられた数よりはどうしても少なかった。ただでも文字という抽象的なものを覚えることの負担は大きい。定着していない単語の語頭文字はさらに記銘に困難があった。しかし、今回の学習者が非識字者も含めて最近の学習困難者と比べて非常に多くの仮名の読みを習得したことは事実である。高齢化した孤児世代でも、また非識字者であっても、無理ないペースと方法で提示していけば文字の習得もある程度可能であること、また積極的に学習しようという意欲を持ってくれることが示されたと言えるだろう。

また、印象の域を出ないが気づいたこととして以下の点が挙げられる。

1)　語彙の記憶について　　当たり前のことではあるが、

① できるだけ彼らの意味世界の中で重要なものを語彙に選んだつもりではあったが、同じ回数提示し練習をしても、やはり覚えやすい語と覚えにくい語がある

覚えやすい語：親族呼称、たばこ(を吸う人は覚え、吸わない人は覚えられない)

② 中国語の干渉が連想上の役に立っている語は覚えやすい

例) ″桃″(発音が″毛毛(maomao)″(=″可愛い丸々とした赤ちゃん″という含意があり、桃の果実が連想されやすい)に似ている。また「も」の字形も「毛」から出来ただけあって「毛」に似ていることも識字者には連想を誘いやすい)、″夫婦″(中国語の会話では一般に″夫妻″の方がよく使われるが、″夫婦(fufu)″の語もある)

③ 絵カード化は記憶の助けになる

一語一語絵カードというモノを用い、やや抽象的な語であっても具体的な形として提示したことは語のイメージ化とその保持に多少は効果があったようだった。全ての語彙がカードとして各自の手元にあり、いつでも参照できるということも安心感につながったようだった。

2) 文字については

① 日本語の語彙が想起できなくても、例えば「ひ」のカードを見てもらうと「″飛機″的…(=「飛行機」の…)」という言葉は出てきて、単語と文字とが視覚的に結びついている場合が多いことが窺えた。文字と単独の音だけを結びつけるより、語彙と結びつけた方がやはり印象に残りやすいようだった

② 語彙は定着していても、以下のような音韻上の干渉は生じる

・語頭ではなく語中で彼らが自然に強勢を置く音韻の発音と結びつけてしまいがち(例：当初「に」を「にほん」の「ほ」、「ひ」を「ひこうき」の「こ」と覚えてしまった人が多かった)(「に」については後日「にく」の「に」として再提示した)

・上の「ひ」のように中国語にない音韻は万葉仮名と結びつきにくく、定着しにくい。但し「き」についてはなかなか発音できないため必死で練習した結果、却って印象に強く残り、意外によく定着している(発音は「ち」になるが)

・中国語の音韻体系からの判断で、子音とみなされず母音として覚えてしまいがちな音韻がある(例：日本語の「は」は中国語の「ha」ほど息を強く出さないため、「はくさい」も彼らの耳には「あくさい」と聞こえ、「は」を「あ」と読みがち)

・子音＋撥音は中国語では一音として発されるため、「ん」単独の導入が最後になることもあって、例えば「りんご」の「り」を「ling」と覚えてしまいがち(後に「李」と同じ音であると改めて提示)

③ 行別方式との関連で

・適性の高い学習者では、シソーラス方式で50音の半分強にあたる25字導入したところで、自ら「50音図とテープがほしい」と要望してきて、それを渡しただけで残りの字を自力で覚えてくることができた。この学習者が初めから行別の文字のみ方式で習得できたかどうかは検証することができないが、仮名の半数が定着した後で負担がより少なかっただろうことは想像できる。

・行別の導入を始めた時点で、既に相当数の仮名が定着していたためか、非識字者も行別の学習への拒否感はなく、むしろ積極的に取り組んでくれた。これが初めから行別(の絵単語行別)方式であったら習得できたかどうかは検証できていないが。

５．今後の課題

今後の課題として以下のことを考えている。

1) より印象に残りやすい語の選定

今回の実践では今までの実践の蓄積から覚えやすい語を選ぶよう努めたが、特にプログラム後半の行別学習で提示する語は、生活上重要な語であるかどうかよりも印象に残りやすい語であることが第一条件となるので、今回の実践を踏まえてさらに語の差し替えを考えていく必要があるだろう。

2) 絵単語方式が適当である人と行別でも学べる人とが混在するクラスでの使用

学習者数の減少により、クラス内の学習適性の幅は今後もますます広がる

だろう。そのようなクラスでの絵単語方式の使用についてだが、以前の混在クラスで絵入り単語カードを少し紹介したときに、行別で文字のみを提示する方式でも問題ない適性の学習者からも「これなら単語が覚えやすい！」と喜ばれたことを考えると、絵単語方式によって語彙を覚えること自体は高齢の学習者の誰にとってもマイナスではないという感触を得た。クラス全体としてそれを行別で進めるか意味別で進めて記憶の負担をより少なくした方がいいかは、その期その期の学習者の適性やビリーフ、クラス内の人間関係など様々な要因に左右される事柄である。毎期の試行によって確認していっていいのではないだろうか。少なくとも、学習が困難であればあるほど語彙からの連想でないと文字が習得できない場合が多いので、そのケアを忘れてはならないだろう。

3) 自学自習力の涵養

センターの研修は６ヶ月しかないが、せっかく習得した文字の記憶を保持し、何とか語彙を広げる際のメモなどで活用してほしい。学習という活動自体にも"ボケ防止"や生き甲斐など様々な意義があるので、無理のない形で継続してくれるよう望みたい。そのために彼らでも自習可能な学習方法による教材・プログラムの開発が必要である。

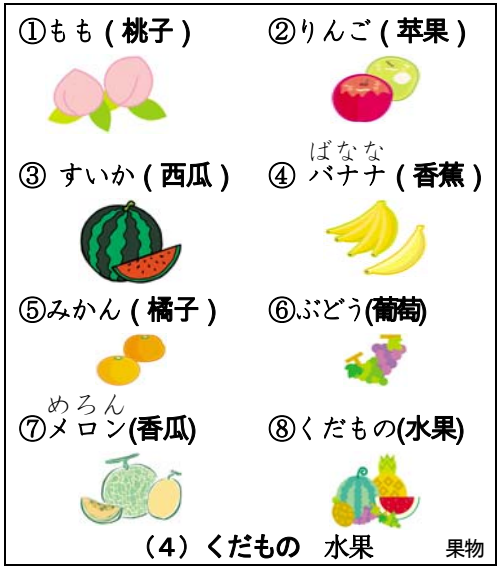
文献：内藤臨(1995)「実践報告―非識字者への平仮名指導」、『中国帰国者定着促進センター紀要第３号』。

付録１　　絵単語 提示順　　網掛けは仮名の導入に使用した語

分野	語彙	備考／使える話題
1 家族	かぞく, わたし, しゅじん, かない, むすめ, むすこ, まご	家族語彙は学習者にとって優先順位がかなり高く、自分の家族については保持が可能な人がほとんどである
2 センター	センター, うち, ごはん, トイレ, そうじ, じむしつ, にっちょく, しょっけん	「日直」は当センター外では殆ど必要性がないのでオプション
3バス買い物	スーパー, おかね, かいもの, さいふ, たばこ, バス, すみません, どこですか	近所のスーパーに買い物に行く実習で用いる語彙のセット
4果物	くだもの, メロン, ぶどう, みかん, もも, りんご, バナナ, すいか	「果物」は抽象度が高いためオプション／「おいしい」と組み合わせて話題で
5日中の家族	なまえ, にほん, ちゅうごく, います, いません, だれ, いつ, ふうふ	「名前」は抽象度高く、定着せず。「だれ／いつ」も抽象的で容易に定着はしないと予想されたが重要な語であるとみなして提示(仮名導入には用いない)
6交通	ひこうき, きしゃ, でんしゃ, じてんしゃ, くるま, きっぷ, えき, あるいて	外出実習のつど提示／中国から日本までの旅程を紹介してもらう話題で
7気候天候	ゆき, あめ, あつい, さむい, なつ, ふゆ, たくさん, すこし,	故郷の気候を紹介する話題で／「たくさん／すこし」も抽象度が高く定着しにくいが敢えて導入
8野菜	きゅうり, なす, セロリ, やさい, ねぎ, はくさい, トマト, ピーマン	農業従事者が多いため、野菜の名前は身近／自分が作っていた作物の話題等
9穀物野菜	こむぎ, だいず, じゃがいも, さつまいも, とうもろこし, こめ, にら, しょうが	同上／「米、小麦」を必須とし、あと２つをクラスの人たちの覚えたいものを選んでもらい、残りはオプションで余裕ある人だけ覚えればよいとした
10 主食系	ごはん, パン, うどん, おかゆ, ラーメン, にくまん, ぎょうざ	「おいしい」と組み合わせて日本と中国の食べ物比べの話題等で

11 乗換外食①	たべます，のみます，かえります，いきます，おちゃ，みず，レストラン，おはし	動詞は名詞より具体的でないため、定着度は低いのは周知のことであるが、ダメで元々でセットで導入
12 乗換外食②	じしん，かじ，ひるごはん，けいさつ，まっすぐ，みぎ，ひだり，しんごう ※この週から行別方式に入るため、これ以降はカテゴリー別絵単語は文字導入に用いず	外出実習で「防災館」で地震と煙の体験をするのに合わせて「地震、火事」を導入。後半４つは道聞き実習の関連語彙　＊この２週前から行別の導入を始めているため、「信号」はさ行のところで再度提示される。ここでは文字学習のための強調をしない。しかし、「信号」は身近さから言うとポイントが低く、定着しにくかった。
13 食材	さかな，たまご，とうふ，にく，ぶたにく，とりにく，ぎゅうにく，ひつじ	「羊」は使用頻度の低い「ラム」を避けたがいずれにしてもオプション／「おいしい」などと組み合わせて日本と中国の食べ物比べ話題等で
14 調味料	しょうゆ，あぶら，あじのもと，す，しお，さとう，こしょう，とうがらし、こむぎこ※	餃子の作り方を教える交流実習で用いられることも期待して導入／※小麦粉は調味料ではないが、餃子の作り方をゲストに教える実習に合わせて提示するのに合わせてここで提示
15 身体	め，て，あし，こし，は，のど，あたま，おなか	「痛い」と組み合わせて話題や通院場面会話で
16 趣味	つり，ダンス，あみもの，さいほう，ししゅう，さんぽ，りょうり，たいきょくけん	趣味などないという人が多いクラスだが、何か老後の楽しみを見つけてもらうためにもあえてこの話題で
17 病気	げんき，びょうき，かぜ，くすり，けが，ねつ，びょういん，にゅういん	通院等医療に関わる場面会話で
18 施設	がっこう，しやくしょ，ぎんこう，ゆうびんきょく，しょうがっこう，ちゅうがっこう，こうこう，だいがく	「高校、大学」は孫が高校・大学生の場合のオプション 「行きます」と組み合わせて家族話題で
19 色	あか，しろ，あお，きいろ，くろ，みどり，ちゃいろ，むらさき	「好き」と組み合わせて話題で
20 時間	あさ，ひる，ばん，ごぜん，ごご，ゆうがた，じかん	分野ごと抽象度高いが必要性も高い 「昼ご飯」は#12 で既習

付録２　絵単語１セットの　例　　① 導入の教材　実際はＡ４判カラー



② 判別練習の例　　実際はＡ４判

字母（４－①）果物　　氏名(　　)

①もも（桃子）	り	め	も	み
②りんご（苹果）	み	も	り	め
③メロン（香瓜）	め	り	み	も
④みかん(橘子)	も	ろ	め	り

※イラストは「具マンタン」及び当センター作成物、マイクロソフト社のクリップアート等を利用

③教室掲示用のカードの例（実際は B5 判カラー）

④ 書写練習シートの例

①もも（桃子）	も	も	も
	も		
も	も	も	

⑤ 行別提示教材の例　既習語＋既習字で読める未習語を提示

（実際はＡ４判カラー）

50 音図字母（3）さ行　　氏名(　　)

①さいふ（钱包）

②さかな（鱼）

③しお(盐)

④しんごう（红绿灯）

⑤すーぱー
スーパー(超市)

⑥すいか（西瓜）

⑦せんたー
センター（中心）

⑧せろり
セロリ（芹菜）

⑨そうじ（打扫）

⑩そら（天空）